

◇エネルギー総合商社◇

株式会社CPFエナジー



cube plastic fuel

info@cpf-e.co.jp

電話 (075)604-6110



はじめに

20世紀は物質文明の時代で、世を挙げて人々はもの作りに励んできました。皆が目指したのは次々と作り替えられる消費財の製造であって、それらの原料となる資源は無尽蔵にあると錯覚していたのです。したがって、地球資源が有限であることや、資源原料を人々の義務として作り出すことなどすっかり忘れていたのです。現在の世界の国々は、その多くがめざましい経済発展を遂げ、急速にこの貴重な炭素資源を消費してきました。ところが生命体が必要とする地球上の有機資源量は極めて限られ、地殻中の炭素存在度はたったの0.02%、つまり地球表面に微かに張り付くようにしか分布していないのです。そして石油はあと数十年しかもたないと言われています。現在の状態のまま放置すると、私達の子孫は石油を入手できなくなるでしょう。石油や石炭は、地球も人類も再生産できない資源なのです。

プラスチックのリサイクル事業は、資源として再度使用することにより、現在の社会が石油を再生産可能な資源に転換できる唯一の手段なのです。しかし、プラスチックにはあまりにも多様な種類があり、量にもよりますが、それらは現段階で技術的にリサイクル可能なものと困難なものに分類されます。分別できない混合物、複合材料、混紡繊維製品、劣化したものなどは再生原料としてのマテリアルリサイクルが困難です。全てを含めたプラスチック全体の再利用を確立するには、燃料化リサイクルの推進が望まれます。しかしながら、再生燃料を製造する過程で貴重な炭素資源から作られる電力を大量に使用することは「もったいない」ことではありませんか。つまり、トータルでのエネルギー使用量を削減できる仕組みが、燃料化事業を推進していく上においてもっとも重要なポイントとなるのです。



経営理念

資源の有効利用

本事業を通じて貴重な化石資源の延命を図る

安心の提供

本事業を通じて廃棄物の適正処理を推進する

地球環境の保全

本事業を通じてCO₂の排出量を削減する

次世代への継承

本事業を通じて資源の節約を図り新技術開発を未来社会に委ねる

cube plastic fuel



事業概念

現在、海外（とくに欧州）に於いては、燃料需要に対する破碎プラフ製品の位置付けが単なる廃棄物の有効利用に止まらず、一燃料製品として確立されています。純粋に燃料としての性能（熱量や燃焼効率）に対する価格評価を受けており、原材料仕入時における経済効果（処理費収益）がその燃料価格決定に反映されることはありません。極めて合理的であり、そういった社会性（燃料としての認知）が同時に廃棄物の適正処理やリサイクルの推進、更には地球環境の保全や資源枯渇の対策にも効果をもたらしているといえます。一方、我が国に於いてはどうでしょう。廃棄物処理法により、発生から最終処分に至るまで厳しく規制・管理されており、結果として「廃棄物＝不要物」を定着させているといわざるを得ません。廃棄物を有効利用することによって得られる経済効果が明確になるのであれば、その製造や流通などのプロセスにおける共有化を積極的に推進していく必要があることは、海外の例からも明白であります。

「廃棄物＝有要物」の考えを定着させていくことが、当社の社会的責務と捉え、国内のコンセンサス形成の一助となるよう努力してまいります。現在、国内の製紙工場等に向けて年間 10 万トンの CPF 製品を製造・供給しておりますが、今後は他のユーザーに対しても CPF 燃料の宣伝を行い、重油や石炭といった化石燃料の代替製品としての利用を促し、万全の供給体制を構築してまいります。国内から無駄に捨てられていくプラスチックが無くなる日まで企業努力を続け、燃料としての適正価格の保全を図るためにも将来はマーケットの創設を担い、CPF 製品のパイオニアとしての立ち位置を確立させてまいります。そして、CO2 排出権の取引と同時に、不足することになるであろう破碎プラフ燃料の海外調達の実施も視野に入れ、業容の拡大を図り、当社の経営理念の実現を押し進めてまいりたいと考えております。

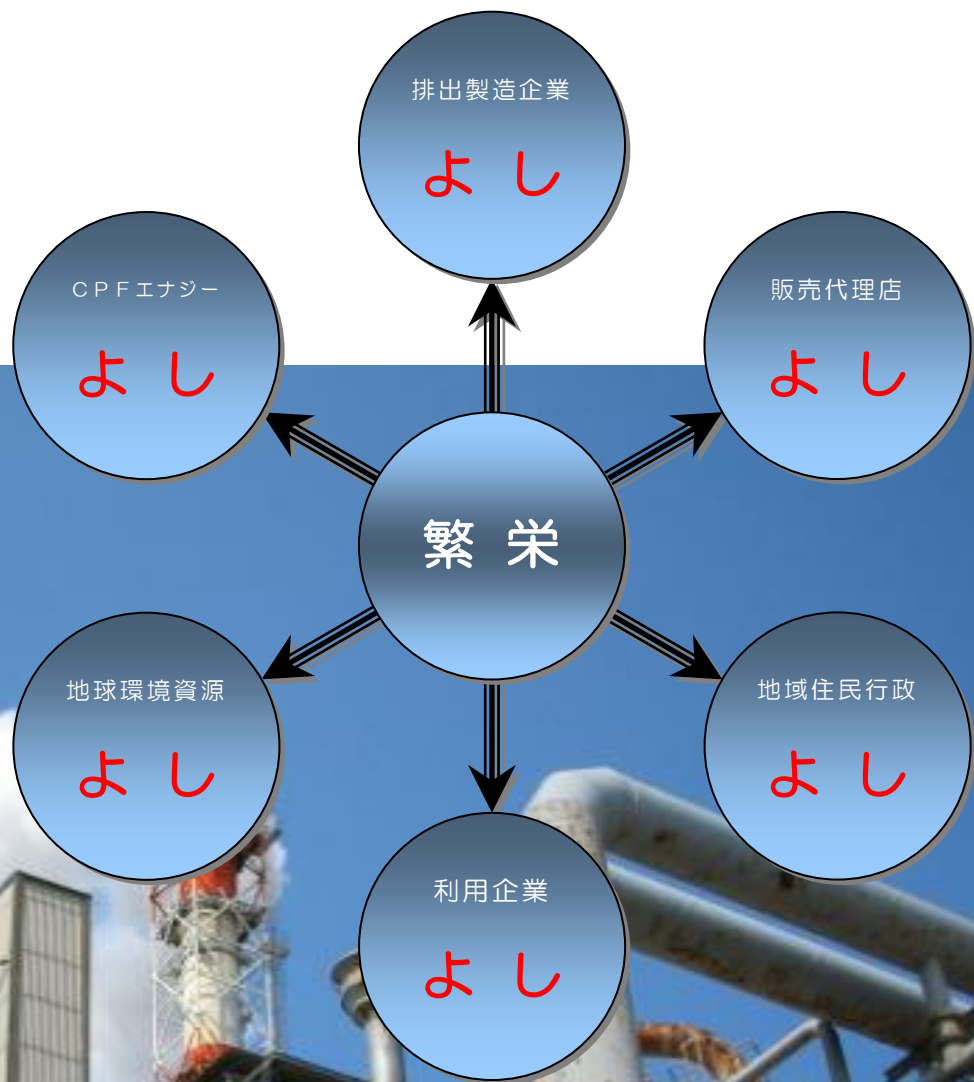


基本方針

三方よし

古くから伝わる、近江商人の教え

琵琶湖の東南部に位置し 1585（天正 13）年、豊臣秀吉の甥・秀次が城下町として開町したのが現在の近江八幡市。近江商人の発祥の地として古くから栄え、「三方よし」の教えがあります。これは、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の三方の繁栄を願う、象徴的な考え方です。



cube plastic fuel



主な納入先



富岡工場

徳島県阿南市豊益町吉田 1

概要

- 日本最大級の臨海塗工紙工場
- 環境管理システム国際規格「ISO14001」認定取得
- 2002年よりCPF燃料（廃プラスチックを原料とする）の使用開始



会社概要

資本金 10,000千円

設立 平成16年1月

本店所在地 京都府京都市

代表取締役 安東 健方

事業内容 燃料用プラスチックの製造及び販売業務

取引銀行 三菱東京UFJ銀行、京都銀行、関西アーバン銀行

関連会社 株式会社CPFロジスティクス（物流・製造）



	仕様及び受入基準
種類	100%プラスチック※1
性状	軟質系（又は灰分の少ないプラスチック）
形状	50mm以下※2
塩素分	0.3%以下※3
成型	プレス品（1,200mm角以下）
結束	樹脂バンド
梱包	フィルム包装又は袋詰
水分	10%未満（10%超については歩引）
その他	発生源のサンプル品を提示し王子製紙(株)富岡工場の事前承認を得る事。 徳島県廃棄物対策課と協議のうえ、事前承認を受ける事が必要です。

※1 異物（金属・不燃物）等の混入は不可です。

※2 概ね 50mm程度であり一部例外があります。

※3 インク等に含有する塩素が対象であり、塩ビ製品は除外します。